



「オオカミに負けないお家を作ろう」

11月7日に行われた、摩周丘幼稚園お遊戯会での一コマです。4歳児が劇「3匹のこぶた」を披露。毎日一生懸命練習してきた元気いっぱいの演技に、会場の保護者などから大きな拍手が贈られました。

(関連記事21ページ)

Public relations magazine

2010.12 No.676

てしかが

主な内容

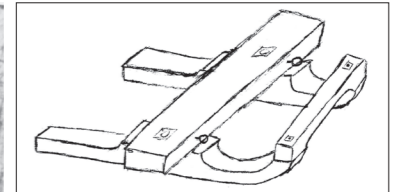
- 弟子屈町功労賞表彰式……………②
- 第5次弟子屈町総合計画策定のための町民アンケート…④
- 12月は町税等完納強調月間です……………⑩
- 健康づくり推進員が決まりました……………⑪
- 保育園の入園を受け付けます……………⑫
- 町税などの納期限……………⑫

むかしむか史 (242)

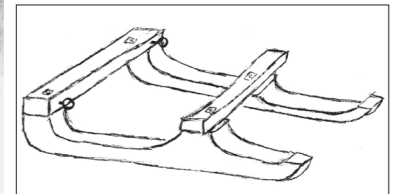
てしかが歴史写真館 116



丸太の下にバチバチが付けられている



前バチ…馬とつなぐ馬具や丸太を固定する



後バチ…丸太を固定する金物を取り付けられる

冬山造材

弟子屈開拓も北海道内陸部開拓と同じように、豊富にあった森林資源を産業にすることでした。1897(明治30)年に帝室林野局札幌支所川上出張所が設置され、1900(明治33)年に御料林の払い下げがされましたが、産業とまではなりません。本格的な林業となったのは、釧路に製紙工場ができ、釧路地方の石炭採掘が盛んになってきた大正時代に入ってからでした。

冬の造材は雪が味方し、夏の間入ることができなかった山奥にも入ることができます。この冬山造材で活躍するのが「バチソリ」です。

丸太を馬が運べるまで切り出し、丸太の前の方にバチソリ(単に「バチ」とも言う)を付け、後ろを雪の斜面と摩擦させてブレーキ代わりにします。平坦になったところでは、後ろにもバチソリを付けます。これを「バチバチ」と言っていました。写真は丸太にバチバチを付けて山奥から一時集積する土場まで、馬と力を合わせて運び出しているところです。

冬の間、開墾や農作業ができない開拓者にとって造材は、馬と一緒に働くことができ、越冬準備や春を迎えるための現金収入を得ることができる仕事でした。

てしかが郷土研究会(松橋)

てしかが 2010.12

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/企画財政課 ☎482-2913 ☎482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています